

奨励賞



設計担当者

慶野正司

(有)アトリエ慶野正司一級建築士事務所、栃木県建築士会

ホテル、物品販売業を営む店舗、飲食店(パン屋)／栃木県下野市

吉田村 Village

構造 | 鉄骨造一部木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 785.74㎡

建築面積 | 248.43㎡

延べ面積 | 418.60㎡

竣工 | 令和3年7月19日



1



2

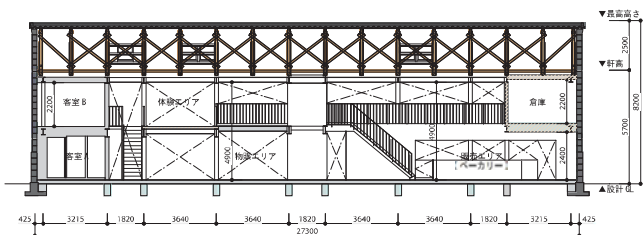


4

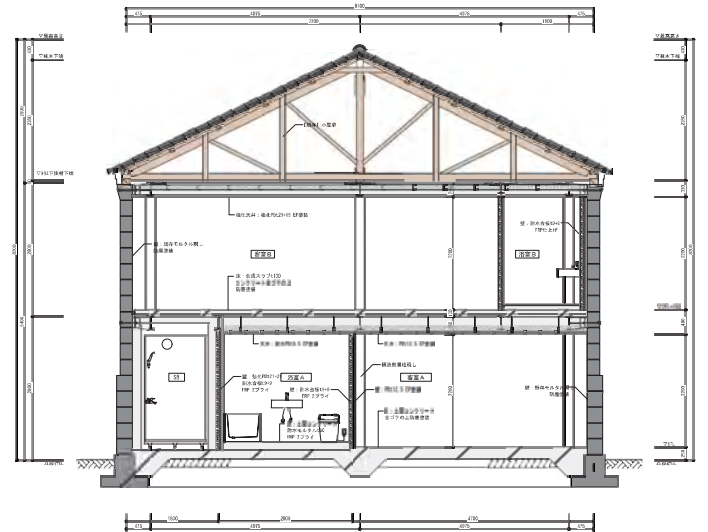


3

- 1 ベーカリー側より施設中央をのぞむ。大谷石蔵を支える鉄骨構造体
- 2 飲食エリアをのぞむ。新設高窓から光が漏れる
- 3 2階客室をのぞむ
- 4 上空西側より見る、姿形をそのまま残す



改修断面図



矩計図

選評

街道沿いに残された大谷石蔵のリノベーションを核とした商業施設である。

一見これといった特徴のない田畑に囲まれたのどかな風景であるが、よく見ると特産である大谷石を使った蔵が今でも散見される地域でもある。この蔵に着目し、かつて吉田村と呼ばれたこの地域にアグリツーリズムを仕掛ける自称「村長」のクライアントと、蔵にリノベーションを施し商業施設兼宿泊施設に用途転換した地元

建築家とのコラボレーションが生み出した、仕組み・取り組みと一体の建築作品である。

建築単体に着目しても、オリジナルの蔵を活かしたつくりすぎないリノベーションが魅力的な空間を生み出している。たとえば、宿泊施設と商業施設はゾーニングされておらず、蔵の空間特性を生かすためワンルームとして改装された商業空間の中に宿泊室はボックスインボックス状に置かれている。このため宿泊者は、博物

館に泊まる「ナイトミュージアム」にも似た、リノベされた蔵そのものに泊まった体験ができるといった魅力もしっかりと盛り込まれている。

しかしこの施設の最大の魅力は、街道沿いに点在する同種の石蔵をネットワーク化し、旧吉田村全域のまちおこしにつながる可能性を感じさせてくれる点にある。今後の広がりに期待する。

(山梨知彦)